

# 令和3年度 学力向上グランドデザイン

須賀川市立第三中学校

教育目標 【自分づくり】 社会に目を開き「なりたい自分」の姿を描き実現しようとする人  
 創造（自ら考え、表現できる人） 共生（仲間とともに高め合える人） 健康（心身ともにたくましい人）

《これまでの反省より…生徒の実態（育てたい力）》  
 ○ 学習習慣の確立と学力の向上 ○ 基本的生活習慣の定着  
 ○ 思いやりの心 ○ 進路を選択する力

＜生徒の願い＞  
 ○ わかる授業・友だちと学び合う授業をしてほしい  
 ○ 楽しい行事を工夫してほしい  
 ○ 充実した部活動であってほしい

＜保護者の願い＞  
 ○ 学力を向上させ、希望する進路に進ませてほしい。  
 ○ 部活動、諸活動を充実させ、楽しい学校生活を送らせてほしい。  
 ○ 読書に親しむ生徒の育成に努めてほしい。  
 ○ 学校での取り組みや生徒の活動の様子などを知らせてほしい。

学校像 ○ 今日が楽しく明日が待たれる学校

生徒像 ○ 創造「自ら考え、表現できる人」  
 （問題解決や目標達成のために主体的に交流し合い、深まった考えを表現できる人）  
 ○ 共生「仲間とともに高め合える人」  
 （先輩や後輩とも良好な関係を築き、互いを高め合い、目標を成し遂げられる人）  
 ○ 健康「心身ともにたくましい人」  
 （心身の健康や安全に関する知識を深め、自分で管理や回復を図ることができる人）

教師像 ○ 高い理想を持ち、誇りある教師  
 ○ 生徒のよさを認め、伸ばす教師  
 ○ 自己研鑽に励み、学び続ける教師

新学習指導要領における3つの柱

① 学びを人生や社会に生かそうとする  
 学びに向かう力・人間性等の涵養

② 生きて働く知識・技能の習得

③ 未知の状況にも対応できる  
 思考力・判断力・表現力等の育成

主体的・対話的で深い学びの実現

現職教育研究主題  
 主題 『協同的な学び』を通して、すべての生徒が「学び合う」授業づくり  
 ～すべての生徒の学びを保障するための、教師の「みとり力」の向上～

総合的・横断的な取り組み

I 充実した校内研修	II 主体的な学びの場の設定	III 学びに向かう力の育成	IV 学びのスキルの向上
充実した授業の設計 ○協同的な学びを取り入れた一人一人がわかる授業設計と実践 ○全体研修会の充実（各学期1回の講師を招いての全体研修会・検証授業および年5回の研修会設定・検証授業の実施） ○教師のみとりの訓練 ○学習アンケートの実施と活用 ○全国学力調査・ふくしま学力調査・実力テスト等の分析と対策 ○ジャンプの課題の積極的実施	自ら積極的・継続的に学ぶ学習形態の工夫 ○協同的な学び（学び合い）の場の設定（3～4人組、コの字型など） ○学びのプロセスの確認 ○各種コンテスト（漢字・計算・スペリング）の実施と事前・事後の支援 ○少人数学級を生かした個に応じたきめ細かな支援	基礎的・汎用的能力を高める授業づくり ○「授業スタンダード」を活用した、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の実践 ○協同的な学びの中での言語活動の積極的な活用と、他と積極的に関わるコミュニケーション力の育成 ○「花王スクールスタンダード」を活用した小中一貫による9年間を見通した学習活動の実践 ○「学力向上グランドデザイン」に基づいた実践による、見通しのある学習活動	自主学習マネジメント力を高めさせる指導 ○「家庭学習スタンダード」を活用した、生徒の学習におけるR-PDCAサイクルの徹底 ○毎日実践100%を目指した家庭学習の推進 ○「学習の手引き」を活用した各教科での学習の進め方の確認と定着

## 各教科の学力向上の手立て（具体的実践事項） ※①～③は新学習要領における3つの柱

教科	国語科	社会科	数学科
学具力体的な手立て	①教養を高め、文章に親しむ力を育てるため、音読や黙読の時間を保証する。 ②語彙力の向上のため、授業とリンクしたワークの予習課題や、漢字の学習を家庭学習で活用する。 ③自分の考えをまとめ、わかりやすく相手に伝えるよう表現するための書く時間を確保する。	①主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てるため、協働的な活動の時間を確保する。 ②社会的事象に対する知識や諸資料から読み取る力の向上のため、資料を用いての問題解決学習の実践や、家庭学習の予習復習でワーク等を活用する。 ③様々な資料から根拠となる事柄を見つけ出し、自分の意見や考えを書き、他者に効果的に伝える時間を確保する。	①生徒が単元の学習を通して身に付けてきた知識・技能等を生かすことができる学習課題を設定する。 ②根拠を伴った理解へとつなげるために、問題解決に用いた既習事項との関わりを見いださせる時間を確保する。 ③数学的な表現を用いて筋道を立てて説明したり、問題を解決したりできるように、書く時間や対話の時間を確保する。
教科	理科	音楽科	美術科
学具力体的な手立て	①自然の事物・現象に進んで関わり科学的に探求する態度を育成するため、観察・実験の時間を多く確保する。 ②知識・技能を身に付けさせるため、観察・実験を通して、ワークや単元テストなどで確認する。 ③科学的な思考力・判断力・表現力を身につけるため、グループ学習を通して解決していく。	①豊かな感性を育てるために、音楽家が表現したかった情景を共有する喜び、仲間の感じ方をもっと知りたいと思う心情が育てられる活動を考え、提供する。 ②表現（歌唱・器楽・創作）の技能を向上させるための基礎基本の習得と、集団で技能向上する喜びが味わえる場を設定する。 ③様々な音楽・音楽活動を通して、考える場・発表の場を積極的に設定する。	①主体的に美術を愛好する心情を育てるため、地域の材料や題材を取り上げた表現と鑑賞の活動を保証する。 ②平面作品だけでなく、立体作品も制作することで、五感を刺激した知識・技能を日常生活に活用する。 ③様々な資料から、自分の鑑賞や制作に必要な資料を取捨選択し、表現を通して他者に効果的に伝える時間を確保する。
教科	保健体育科	技術・家庭科	英語科
学具力体的な手立て	①健康の保持増進と体力の向上を目指し、自ら進んで運動できる環境づくりと、楽しくみんなと活動できる運動量の確保。 ②科学的知識や技能のコツの理解を向上させるために、資料提示の工夫や生徒同士の見合いの時間の確保、ICTを活用する。 ③共同的な学びを通して課題の把握や、自分の思考・判断したことを、他者に言葉や動作などで伝える場面・時間を設定する。	①生活の中から課題を見つけ、学習内容と生活と結び付けて深く理解し、その解決を図るための方法を考える場を設定する。 ②基礎的な技術を身につけさせ、学んだことを実生活の中で活用できるよう実験や観察を多く取り入れる。 ③話し合い活動で、自分の考えを深めるとともに情報機器を活用して自分の考えなどを発表できる場を設定する。	①積極的に周り関わりながらコミュニケーションする力を育成するために、協同的な学びの場を設定する。 ②言語材料の理解力、運用力を向上させるため、授業へとつながる予習課題、単元ごとの単語練習やワーク等の家庭学習を活用する。 ③既習事項を用いて豊かに表現できるようにするため、「人との、こと」との関わりを重視した活動の場面や時間を設定する。

本年度の到達目標

友だちに考えを伝え、協同で問題を解決する力を育てます。  
 ・[全国学力学習状況調査で全国平均超]、[県学力実態調査で県の平均到達度超]、[実力テストで県平均超]  
 ・「わからないことやもっと知りたいと思ったことは、自分で調べたり、友達に聞いたりしているか」(80%以上)【生徒アンケートの結果】  
 ・「学習課題を解決していく中で、「わかった」・「できるようになった」が増えてきたか」(80%以上)【生徒アンケートの結果】  
 ・教師のみとりに関する自己評価（プラス解答80%以上）